

## 2020年度 授業要項

区分	専門分野		授業形式	履修学年/学部	第1学年/昼間部 IIコース
科目名	基礎柔整学 I		講義	履修単位/時間	4単位/60時間
教員資格	柔道整復師 専科教員			使用教室	303教室
教員名	武島 千明				
学習目標と講義概要	柔道整復学の基礎となる部分を理解、習得し基礎的な見地のある柔道整復師となれる事を目的とする。外傷の多い骨や筋肉などの名称を覚え、スムーズな各論への導入が行えるようにする。柔道整復術の基礎・歴史を学び、柔道整復師の業務範囲の概要を理解する。その後、前半では骨損傷の分類や骨折が起きる過程を学び、後半では骨折が起きた際の合併症や小児・高齢者の特徴、骨折の治癒過程を学び、柔道整復術の知識を深める。				
回数	コマ数	時間数	学習内容		
1	1	2	傷害の多い上肢骨概論(触察しながら学習させる)		
2	1	2	上肢骨の骨折好発部概論(鎖骨中外1/3境界部骨折、肩甲骨外科頸骨折)		
3	1	2	上肢骨の骨折好発部概論(上腕骨外科頸骨折、上腕骨顆上骨折)		
4	1	2	上肢骨の骨折好発部概論(肘頭骨折、コーレス骨折)		
5	1	2	上肢骨の骨折好発部概論(ボクサー骨折、末節骨骨折)		
6	1	2	上肢関節の脱臼好発部概論(肩鎖関節上方脱臼、肩関節前方脱臼)		
7	1	2	上肢関節の脱臼好発部概論(前腕両骨後方脱臼、肘内障)		
8	1	2	傷害の多い下肢骨概論(触察しながら学習させる)		
9	1	2	下肢骨の骨折好発部(大腿骨頸部骨折、膝蓋骨骨折)		
10	1	2	下肢骨の骨折好発部(下腿両骨骨幹部骨折、中足骨骨折)		
11	1	2	下肢関節の脱臼好発部(膝蓋骨外側脱臼、膝関節前方脱臼)		
12	1	2	傷害の多い頭部・体幹骨概論(触察しながら学習させる)頭部・体幹骨の骨折・脱臼好発部(肋骨骨折)		
13	1	2	頭部・体幹骨の骨折・脱臼好発部(胸腰椎椎体圧迫骨折、顎関節脱臼)		
14	1	2	中間試験		
15	1	2	中間試験 解答・解説・復習		
16	1	2	傷害の多い上肢筋概論(触察しながら学習させる)		
17	1	2	上肢軟部組織損傷好発部(腱板断裂、上腕二頭筋長頭腱損傷)		
18	1	2	上肢軟部組織損傷好発部(野球肘、テニス肘)		
19	1	2	上肢軟部組織損傷好発部(手根管症候群、指側副靭帯損傷)		
20	1	2	傷害の多い下肢筋概論(触察しながら学習させる)		
21	1	2	下肢軟部組織損傷好発部(大腿部打撲、大腿部肉離れ)		
22	1	2	下肢軟部組織損傷好発部(ジャンパー膝、半月板損傷)		
23	1	2	下肢軟部組織損傷好発部(側副靭帯損傷、十字靭帯損傷)		
24	1	2	下肢軟部組織損傷好発部(腸脛靭帯炎、鵞足炎)		
25	1	2	下肢軟部組織損傷好発部(アキレス腱断裂、足関節捻挫)		
26	1	2	傷害の多い頭部・体幹筋概論(触察しながら学習させる)		
27	1	2	頭部・体幹軟部組織損傷好発部(顎関節症、頸部捻挫)		
28	1	2	頭部・体幹軟部組織損傷好発部(頸椎ヘルニア、頸椎症、胸郭出口症候群)		
29	1	2	単位認定試験		
30	1	2	解答・解説		
合計					
30	30	60			
学習方法					
1)板書及び説明、解説      2)資料の配布及び説明、解説					
評価方法					
「学則第24条、第25条、第26条、第27条、第28条」及び「学則施行細則第11条、第15条」並びに「単位認定試験実施要領」「単位認定・進級判定要領第1項」「成績評価規程」に準ずる。					
教科書					
柔道整復学・理論編 :南江堂					
教員について【実務経験有】					
担当教員は鍼灸、柔道整復の教員資格を持ち他校での教員歴も合わせて5年であり、現在も附属治療院にて臨床経験を積んでいる。その経験に基づいて柔道整復学を学ぶうえでの基盤を構築し、今後に応用できるような授業を展開する。					

## 2020年度 授業要項

区分	専門分野		授業形式	履修学年/学部	第1学年/履問部 IIコース
科目名	基礎柔整学Ⅱ		講義	履修単位/時間	4単位/60時間
教員資格	柔道整復師 専科教員			使用教室	303教室
教員名	武島 千明 ・ 中川 奈央				
学習目標と講義概要	柔道整復学の基礎となる部分を理解、習得し基礎的な見地のある柔道整復師となれる事を目的とする。骨の形態と機能、骨損傷の分類、骨折の症状、骨折の合併症、骨折の治癒経過、骨折の予後を理解し、説明できるようにする。 柔道整復術の基礎・歴史を学び、柔道整復師の業務範囲の概要を理解する。その後、前半では骨損傷の分類や骨折が起きる過程を学び、後半では骨折が起きた際の合併症や小児・高齢者の特徴、骨折の治癒過程を学び、柔道整復術の知識を深める。				
回数	コマ数	時間数	学習内容		
1	1	2	I-1.柔道整復術および柔道整復師の沿革		
2	1	2	I-2.業務範囲とその心得および柔道整復師倫理綱領		
3	1	2	II-1.人体に加わる力		
4	1	2	II-2.損傷時に加わる力		
5	1	2	II-3.痛みの基礎		
6	1	2	II-4-1.骨の損傷A		
7	1	2	II-4-1.骨の損傷B		
8	1	2	II-4-1.骨の損傷C1		
9	1	2	II-4-1.骨の損傷C2		
10	1	2	II-4-1.骨の損傷C3		
11	1	2	II-4-1.骨の損傷C4		
12	1	2	II-4-1.骨の損傷C5		
13	1	2	II-4-1.骨の損傷D1		
14	1	2	II-4-1.骨の損傷D2		
15	1	2	II-4-1.骨の損傷D3		
16	1	2	中間試験		
17	1	2	中間試験 解答・解説・復習		
18	1	2	II-4-1.骨の損傷E1		
19	1	2	II-4-1.骨の損傷E2		
20	1	2	II-4-1.骨の損傷E3		
21	1	2	II-4-1.骨の損傷E4		
22	1	2	II-4-1.骨の損傷F1		
23	1	2	II-4-1.骨の損傷F2		
24	1	2	II-4-1.骨の損傷F3		
25	1	2	II-4-1.骨の損傷G		
26	1	2	II-4-1.骨の損傷H		
27	1	2	II-4-1.骨の損傷I		
28	1	2	II-4-1.骨の損傷J		
29	1	2	単位認定試験		
30	1	2	解答・解説		
合計					
30	30	60			
学習方法					
1)板書及び説明、解説      2)資料の配布及び説明、解説					
評価方法					
「学則第24条、第25条、第26条、第27条、第28条」及び「学則施行細則第11条、第15条」並びに「単位認定試験実施要領」「単位認定・進級判定要領第1項」「成績評価規程」に準ずる。					
教科書					
柔道整復学・理論編 :南江堂					
教員について【実務経験有】					
(武島先生)担当教員は鍼灸、柔道整復の教員資格を持ち他校での教員歴も合わせて5年であり、現在も附属治療院にて臨床経験を積んでいる。その経験に基づいて柔道整復学を学ぶうえでの基盤を構築し、今後に応用できるような授業を展開する。					
(中川先生)担当教員は鍼灸師、柔道整復師、柔道整復師専科教員資格を持ち、他校での教員経験や接骨院等での臨床経験を積んでいる。					

## 2020年度 授業要項

区分		専門分野	授業形式	履修学年/学部	第1学年/昼間部 IIコース
科目名		基礎柔整学Ⅲ	講義	履修単位/時間	2単位/30時間
教員資格		柔道整復師 専科教員		使用教室	303教室
教員名		武島 千明			
学習目標と講義概要		<p>柔道整復学の基礎となる部分を理解、習得し基礎的な見地のある柔道整復師となれる事を目的とする。            関節の構造と形態、関節損傷の分類、脱臼、筋の損傷、腱の損傷、末梢神経の損傷、血管、リンパ系の損傷、皮膚の損傷を理解し、説明できるようにする。            柔道整復師の業務で関わりの深い関節損傷を理解する。            全体を通して関節損傷の分類や多発する部位、損傷が起きる過程を学び、合併症や予後に関する知識を深める。</p>			
回数	コマ数	時間数	学習内容		
1	1	2	II-4-2.関節の損傷A		
2	1	2	II-4-2.関節の損傷B、C、D、E		
3	1	2	II-4-2.関節の損傷F		
4	1	2	II-4-2.関節の損傷G1		
5	1	2	II-4-2.関節の損傷G2		
6	1	2	II-4-3.筋の損傷A、B		
7	1	2	II-4-3.筋の損傷C、D、E、F		
9	1	2	II-4-4.腱の損傷A、B、C、D、E		
11	1	2	II-4-5.末梢神経の損傷A、B		
12	1	2	II-4-5.末梢神経の損傷C		
13	1	2	II-4-5.末梢神経の損傷D、E		
13	1	2	II-5.診察A、B		
13	1	2	II-5.診察C、D、E		
14	1	2	単位認定試験		
15	1	2	解答・解説		
合計					
15	15	30			
学習方法					
1) 板書及び説明、解説      2) 資料の配布及び説明、解説					
評価方法					
「学則第24条、第25条、第26条、第27条、第28条」及び「学則施行細則第11条、第15条」並びに「単位認定試験実施要領」「単位認定・進級判定要領第1項」「成績評価規程」に準ずる。					
教科書					
柔道整復学・理論編 : 南江堂					
教員について【実務経験有】					
担当教員は鍼灸、柔道整復の教員資格を持ち他校での教員歴も合わせて5年であり、現在も附属治療院にて臨床経験を積んでいる。その経験に基づいて柔道整復学を学ぶうえでの基盤を構築し、今後に応用できるような授業を展開する。					

## 2020年度 授業要項

区分			専門分野	授業形式	履修学年/学部	第1学年/昼間部IIコース
科目名			基礎柔整学IV	講義	履修単位/時間	2単位/30時間
教員資格			柔道整復師 専科教員		使用教室	303教室
教員名			武島 千明			
学習目標と講義概要			<p>柔道整復学の基礎となる部分を理解、習得し基礎的な見地のある柔道整復師となれる事を目的とする。            基礎的な骨折の整復法、脱臼の整復法、固定法、後療法、指導管理を理解し、説明できるようにする。            柔道整復師の業務に携わる際に必要な診察内容・治療法を学び、理解を深める。            前半は主に各論で学んだ損傷の整復法、固定法を学び、各外傷に対する様々な後療法を学び、            後半では前半で学んだ後療法を基に患者指導が行えるように知識構築をする。</p>			
回数	コマ数	時間数	学習内容			
1	1	2	II-6-1.整復法A、B			
2	1	2	II-6-1.整復法C、D、E			
3	1	2	II-6-2.固定法A、B			
4	1	2	II-6-3.後療法A、B、C			
5	1	2	II-6-3.後療法D			
6	1	2	II-6-3.後療法E1			
7	1	2	II-6-3.後療法E2			
8	1	2	II-6-3.後療法E3			
9	1	2	II-6-3.後療法E4			
10	1	2	II-6-4.指導管理A、B、C			
11	1	2	II-7-1.第一段階A1			
12	1	2	II-7-1.第一段階A2			
13	1	2	II-7-1.第一段階B II-7-2.第二段階:早期発見、早期治療 II-7-3.第三段階			
14	1	2	単位認定試験			
15	1	2	解答・解説			
合計						
15	15	30				
学習方法						
1)板書及び説明、解説      2)資料の配布及び説明、解説						
評価方法						
「学則第24条、第25条、第26条、第27条、第28条」及び「学則施行細則第11条、第15条」並びに「単位認定試験実施要領」「単位認定・進級判定要領第1項」「成績評価規程」に準ずる。						
教科書						
柔道整復学・理論編 :南江堂						
教員について【実務経験有】						
担当教員は鍼灸、柔道整復の教員資格を持ち他校での教員歴も合わせて5年であり、現在も附属治療院にて臨床経験を積んでいる。その経験に基づいて柔道整復学を学ぶうえでの基盤を構築し、今後に応用できるような授業を展開する。						

## 2020年度 授業要項

区分	専門分野		授業形式	履修学年/学部	第1学年/4年制部 IIコース
科目名	臨床柔整学 I		講義	履修単位/時間	4単位/60時間
教員資格	柔道整復師 専科教員			使用教室	303教室
教員名	鈴木 勇也				
学習目標と講義概要	柔道整復師として整復学各論の上肢骨折について理解することを目的とする。 鎖骨、肩甲骨、上腕骨の各骨折における発生機序、整復法、固定法、後療法から指導管理に至るまでのプロセス、後遺症の可能性等をきちんと理解し臨床の現場で患者に対しインフォームド・コンセントができるようにする。				
回数	コマ数	時間数	学習内容		
1	1	2	鎖骨の機能解剖		
2	1	2	4-A.鎖骨骨折1		
3	1	2	4-A.鎖骨骨折2		
4	1	2	4-A.鎖骨骨折3		
5	1	2	肩甲骨の機能解剖		
6	1	2	4-B.肩甲骨骨折1		
7	1	2	4-B.肩甲骨骨折2		
8	1	2	上腕骨の機能解剖1		
9	1	2	上腕骨の機能解剖2		
10	1	2	4-C-1.上腕骨近位端部骨折1		
11	1	2	4-C-1.上腕骨近位端部骨折2		
12	1	2	4-C-1.上腕骨近位端部骨折3		
13	1	2	4-C-1.上腕骨近位端部骨折4		
14	1	2	4-C-1.上腕骨近位端部骨折5		
15	1	2	4-C-1.上腕骨近位端部骨折6		
16	1	2	中間試験		
17	1	2	中間試験 解答・解説・復習		
18	1	2	4-C-2.上腕骨骨幹部骨折1		
19	1	2	4-C-2.上腕骨骨幹部骨折2		
20	1	2	4-C-2.上腕骨骨幹部骨折3		
21	1	2	4-C-3.上腕骨遠位端部骨折1		
22	1	2	4-C-3.上腕骨遠位端部骨折2		
23	1	2	4-C-3.上腕骨遠位端部骨折3		
24	1	2	4-C-3.上腕骨遠位端部骨折4		
25	1	2	4-C-3.上腕骨遠位端部骨折5		
26	1	2	4-C-3.上腕骨遠位端部骨折6		
27	1	2	4-C-3.上腕骨遠位端部骨折7		
28	1	2	4-C-3.上腕骨遠位端部骨折8		
29	1	2	単位認定試験		
30	1	2	解答・解説		
合計					
30	30	60			
学習方法					
1) 板書及び説明、解説      2) 資料の配布及び説明、解説					
評価方法					
「学則第24条、第25条、第26条、第27条、第28条」及び「学則施行細則第11条、第15条」並びに「単位認定試験実施要領」「単位認定・進級判定要領第1項」「成績評価規程」に準ずる。					
教科書					
柔道整復学・理論編 : 南江堂					
教員について【実務経験有】					
担当教員は柔道整復の教員資格を持ち、整形外科・接骨院にて5年以上臨床経験を積んでおり、現在も附属接骨院で臨床経験を積んでいる。その経験に基づいて柔道整復学・各論を資格取得後に応用できるような授業を展開する。					

## 2019年度 授業要項

区分	専門分野		授業形式	履修学年/学部	第1学年/疑問部 IIコース
科目名	臨床柔整学Ⅱ		講義	履修単位/時間	4単位/60時間
教員資格	柔道整復師 専科教員			使用教室	303教室
教員名	鈴木 勇也				
学習目標と講義概要	柔道整復師として整復学各論の上肢骨折について理解することを目的とする。 前腕骨、手根・手指の各骨折における発生機序、整復法、固定法、後療法から指導管理に至るまでのプロセス、後遺症の可能性等をきちんと理解し臨床の現場で患者に対しインフォームド・コンセントができるようにする。				
回数	コマ数	時間数	学習内容		
1	1	2	前腕骨の機能解剖		
2	1	2	上肢骨折-D.前腕骨近位端部骨折1		
3	1	2	上肢骨折-D.前腕骨近位端部骨折2		
4	1	2	上肢骨折-D.前腕骨近位端部骨折3		
5	1	2	上肢骨折-D.前腕骨骨幹部骨折1		
6	1	2	上肢骨折-D.前腕骨骨幹部骨折2		
7	1	2	上肢骨折-D.前腕骨骨幹部骨折3		
8	1	2	上肢骨折-D.前腕骨骨幹部骨折4		
9	1	2	上肢骨折-D.前腕骨遠位端部骨折1		
10	1	2	上肢骨折-D.前腕骨遠位端部骨折2		
11	1	2	上肢骨折-D.前腕骨遠位端部骨折3		
12	1	2	上肢骨折-D.前腕骨遠位端部骨折4		
13	1	2	上肢骨折-D.前腕骨遠位端部骨折5		
14	1	2	中間試験		
15	1	2	中間試験 解答・解説・復習		
16	1	2	手部の機能解剖		
17	1	2	上肢骨折-E.手・指の骨折1		
18	1	2	上肢骨折-E.手・指の骨折2		
19	1	2	上肢骨折-E.手・指の骨折3		
20	1	2	上肢骨折-E.手・指の骨折4		
21	1	2	上肢骨折-E.手・指の骨折5		
22	1	2	上肢骨折-E.手・指の骨折6		
23	1	2	上肢骨折-E.手・指の骨折7		
24	1	2	上肢骨折-E.手・指の骨折8		
25	1	2	上肢骨折-E.手・指の骨折9		
26	1	2	上肢骨折-E.手・指の骨折10		
27	1	2	上肢骨折-E.手・指の骨折11		
28	1	2	上肢骨折-E.手・指の骨折12		
29	1	2	単位認定試験		
30	1	2	解答・解説		
合計					
30	30	60			
学習方法					
1) 板書及び説明、解説      2) 資料の配布及び説明、解説					
評価方法					
「学則第24条、第25条、第26条、第27条、第28条」及び「学則施行細則第11条、第15条」並びに「単位認定試験実施要領」「単位認定・進級判定要領第1項」「成績評価規程」に準ずる。					
教科書					
柔道整復学・理論編 : 南江堂					
教員について【実務経験有】					
担当教員は柔道整復の教員資格を持ち、整形外科・接骨院にて5年以上臨床経験を積んでおり、現在も附属接骨院で臨床経験を積んでいる。その経験に基づいて柔道整復学・各論を資格取得後に応用できるような授業を展開する。					

## 2019年度 授業要項

区分	専門分野		授業形式	履修学年/学部	第1学年/疑問部 IIコース
科目名	臨床柔整学Ⅲ		講義	履修単位/時間	4単位/60時間
教員資格	柔道整復師 専科教員			使用教室	303教室
教員名	鈴木 勇也				
学習目標と講義概要	柔道整復師として整復学各論の上肢脱臼について理解することを目的とする。 鎖骨、肩関節、肘関節、手関節及び手指部の各脱臼における発生機序、整復法、固定法、後療法から指導管理に至るまでのプロセス、後遺症の可能性等を理解し臨床の現場で患者に対しインフォームド・コンセントができるようにする。				
回数	コマ数	時間数	学習内容		
1	1	2	鎖骨の機能解剖		
2	1	2	上肢脱臼-A.鎖骨の脱臼1		
3	1	2	上肢脱臼-A.鎖骨の脱臼2		
4	1	2	上肢脱臼-A.鎖骨の脱臼3		
5	1	2	上肢脱臼-A.鎖骨の脱臼4		
6	1	2	肩部の機能解剖		
7	1	2	上肢脱臼-B.肩関節脱臼1		
8	1	2	上肢脱臼-B.肩関節脱臼2		
9	1	2	上肢脱臼-B.肩関節脱臼3		
10	1	2	上肢脱臼-B.肩関節脱臼4		
11	1	2	上肢脱臼-B.肩関節脱臼5		
12	1	2	上肢脱臼-B.肩関節脱臼6		
13	1	2	中間試験		
14	1	2	中間試験 解答・解説・復習		
15	1	2	肘部の機能解剖		
16	1	2	上肢脱臼-C.肘関節脱臼1		
17	1	2	上肢脱臼-C.肘関節脱臼2		
18	1	2	上肢脱臼-C.肘関節脱臼3		
19	1	2	上肢脱臼-C.肘関節脱臼4		
20	1	2	上肢脱臼-C.肘関節脱臼5		
21	1	2	手部の機能解剖		
22	1	2	上肢脱臼-D.手関節および手指部の脱臼1		
23	1	2	上肢脱臼-D.手関節および手指部の脱臼2		
24	1	2	上肢脱臼-D.手関節および手指部の脱臼3		
25	1	2	上肢脱臼-D.手関節および手指部の脱臼4		
26	1	2	上肢脱臼-D.手関節および手指部の脱臼5		
27	1	2	上肢脱臼-D.手関節および手指部の脱臼6		
28	1	2	上肢脱臼-D.手関節および手指部の脱臼7		
29	1	2	単位認定試験		
30	1	2	解答・解説		
合計					
30	30	60			
学習方法					
1)板書及び説明、解説      2)資料の配布及び説明、解説					
評価方法					
「学則第24条、第25条、第26条、第27条、第28条」及び「学則施行細則第11条、第15条」並びに「単位認定試験実施要領」「単位認定・進級判定要領第1項」「成績評価規程」に準ずる。					
教科書					
柔道整復学・理論編 :南江堂					
教員について【実務経験有】					
担当教員は柔道整復の教員資格を持ち、整形外科・接骨院にて5年以上臨床経験を積んでおり、現在も附属接骨院で臨床経験を積んでいる。その経験に基づいて柔道整復学・各論を資格取得後に応用できるような授業を展開する。					

## 2020年度 授業要項

区分		専門分野	授業形式	履修学年/学部	第1学年/昼間部 IIコース
科目名		基礎実技 I	実技	履修単位/時間	1単位/45時間
教員資格		柔道整復師 専科教員		使用教室	実技実習室
教員名		森 俊明 ・ 平戸 幹憲			
学習目標と講義概要		柔道整復師として、最大限の効果のあるテーピングが行えるようになることを目的とする。 機能解剖学に基づいたテーピング固定が行えるようにする。 病態評価に基づいたテーピング固定が行えるようにする。			
回数	コマ数	時間数	学習内容		
1	1	2	テープの種類と機能		
2	1	2	上肢骨・関節の機能解剖		
3	1	2	肩関節固定テープ ①		
4	1	2	肩関節固定テープ ②		
5	1	2	肘関節固定テープ ①		
6	1	2	肘関節固定テープ ②		
7	1	2	手関節・手部固定テープ		
8	1	2	まとめ試験①		
9	1	2	下肢骨・関節の機能解剖		
10	1	2	足関節固定テーピング ①		
11	1	2	足関節固定テーピング ②		
12	1	2	足関節固定テーピング ③		
13	1	2	足関節固定テーピング ④		
14	1	2	膝関節固定テーピング ①		
15	1	2	膝関節固定テーピング ②		
16	1	2	膝関節固定テーピング ③		
17	1	2	膝関節固定テーピング ④		
18	1	2	まとめ試験②		
19	1	2	各部固定テープ復習		
20	1	2	各部固定テープ復習		
21	1	2	各部固定テープ復習		
22	1	2	単位認定試験		
23	0.5	1	解答・解説		
合計					
23	22.5	45			
学習方法					
1) 板書及び説明、解説      2) 資料の配布及び説明、解説      3) 実技実習					
評価方法					
「学則第24条、第25条、第26条、第27条、第28条」及び「学則施行細則第11条、第15条」並びに「単位認定試験実施要領」「単位認定・進級判定要領第1項」「成績評価規程」に準ずる。					
教員について【実務経験有】					
(森先生)接骨院にて約6年の経験がある。 (平戸先生)担当教員は、柔道整復師専科教員資格の他、スポーツトレーナー資格等を持ち、病院や接骨院等の臨床現場のみならずスポーツトレーナーでの実務経験を有している。他の学校での教育経験等もあり、これらの経験を活かし授業を行う。					



## 2020年度 授業要項

区分		専門分野	授業形式	履修学年/学部	第1学年/45時間部 IIコース
科目名		基礎実技II	実技	履修単位/時間	1単位/45時間
教員資格		柔道整復師 専科教員		使用教室	実技実習室
教員名		鈴木 勇也・平戸 幹憲			
学習目標と講義概要		柔道整復師として、最大限の効果のあるテーピングが行えるようになることを目的とする。 筋の走行、作用を考慮しつつ貼付をすることで筋機能向上が期待できるテーピング技法を身に付ける。			
回数	コマ数	時間数	学習内容		
1	1	2	人体各部の関節運動概説 ①		
2	1	2	人体各部の関節運動概説 ②		
3	1	2	骨のランドマーク部位の触察(体幹) ①		
4	1	2	骨のランドマーク部位の触察(体幹) ②		
5	1	2	体幹の筋肉の触察		
6	1	2	骨のランドマーク部位の触察(上肢) ①		
7	1	2	骨のランドマーク部位の触察(上肢) ②		
8	1	2	上肢の筋肉の触察 ①		
9	1	2	上肢の筋肉の触察 ②		
10	1	2	骨のランドマーク部位の触察(下肢) ①		
11	1	2	骨のランドマーク部位の触察(下肢) ②		
12	1	2	下肢の筋肉の触察 ①		
13	1	2	下肢の筋肉の触察 ②		
14	1	2	中間試験		
15	1	2	解答・解説		
16	1	2	筋肉サポートテープの取り扱い・貼り方		
17	1	2	筋肉サポートテープ(上肢) ①		
18	1	2	筋肉サポートテープ(下肢) ①		
19	1	2	筋肉サポートテープ(体幹) ①		
20	1	2	復習 ①		
21	1	2	復習 ②		
22	1	2	単位認定試験		
23	0.5	1	解答・解説		
合計					
23	22.5	45			
学習方法					
1) 板書及び説明、解説      2) 資料の配布及び説明、解説      3) 実技実習					
評価方法					
「学則第24条、第25条、第26条、第27条、第28条」及び「学則施行細則第11条、第15条」並びに「単位認定試験実施要領」「単位認定・進級判定要領第1項」「成績評価規程」に準ずる。					
教員について【実務経験有】					
(鈴木先生) 担当教員は柔道整復の教員資格を持ち、整形外科・接骨院にて5年以上臨床経験を積んでおり、現在も附属接骨院で臨床経験を積んでいる。その経験に基づいて柔道整復学・各論を資格取得後に応用できるような授業を展開する。					
(平戸先生) 担当教員は、柔道整復師専科教員資格の他、スポーツトレーナー資格等を持ち、病院や接骨院等の臨床現場のみならずスポーツトレーナーでの実務経験を有している。他の学校での教育経験等もあり、これらの経験を活かし授業を行う。					

## 2020年度 授業要項

区分			専門分野	授業形式	履修学年/学部	第1学年/昼間部 IIコース
科目名			基礎実技Ⅲ	実技	履修単位/時間	1単位/45時間
教員資格			柔道整復師 専科教員		使用教室	実技実習室
教員名			平戸 幹憲			
学習目標と講義概要			柔道整復師として、スポーツ選手へのメディカルケア、コンディショニングケアが行えるようになることを目的とする。スポーツ現場で必要となる応急処置能力、再発防止のトレーニング指導能力、コンディショニング指導能力を身に付けさせる。			
回数	コマ数	時間数	学習内容			
1	0.5	2	スポーツトレーナーの業務内容について			
2	1	2	スポーツ障害について			
3	1	2	応急処置法(RICE処置) ①			
4	1	2	応急処置法(RICE処置) ②			
5	1	2	応急処置法(搬送法)			
6	1	2	まとめ試験①			
7	1	2	アスレティックリハビリテーション概論 ①			
8	1	2	アスレティックリハビリテーション概論 ②			
9	1	2	評価・測定			
10	1	2	MMT(上肢)			
11	1	2	MMT(下肢)			
12	1	2	MMT(体幹)			
13	1	2	まとめ試験②			
14	1	2	ROM(上肢)			
15	1	2	ROM(下肢)			
16	1	2	ROM(体幹)			
17	1	2	ストレッチング(上肢)			
18	1	2	ストレッチング(下肢)			
19	1	2	ストレッチング(体幹)			
20	1	2	総復習 ①			
21	1	2	総復習 ②			
22	1	2	単位認定試験			
23	1	1	解答・解説			
合計						
23	22.5	45				
学習方法						
1)板書及び説明、解説      2)資料の配布及び説明、解説      3)実技実習						
評価方法						
「学則第24条、第25条、第26条、第27条、第28条」及び「学則施行細則第11条、第15条」並びに「単位認定試験実施要領」「単位認定・進級判定要領第1項」「成績評価規程」に準ずる。						
教員について【実務経験有】						
担当教員は、柔道整復師専科教員資格の他、スポーツトレーナー資格等を持ち、病院や接骨院等の臨床現場のみならずスポーツトレーナーでの実務経験を有している。他の学校での教育経験等もあり、これらの経験を活かし授業を行う。						

## 2020年度 授業要項

区分		専門分野	授業形式	履修学年/学部	第1学年/昼間部 IIコース
科目名		基礎柔整実技 I	実技	履修単位/時間	1単位/45時間
教員資格		柔道整復師 専科教員		使用教室	実技実習室
教員名		鈴木 勇也			
学習目標と講義概要		基礎的な柔道整復学を基に、柔道整復師としての資質を涵養することを目的とする。 外傷治療における固定の重要性と各種固定資材の種類について理解させ、環行帯、螺旋帯、蛇行帯、折転帯、亀甲帯、麦穂帯などの基本包帯法およびデゾー包帯、ヴェルポー包帯、ジュール包帯などの冠名包帯法について習得させる。			
回数	コマ数	時間数	学習内容		
1	1	2	人体各部の関節運動 ①		
2	1	2	人体各部の関節運動 ②		
3	1	2	1.固定(固定の目的、範囲、肢位)		
4	1	2	2.固定材料の種類と適用		
5	1	2	3.上手な巻軸帯の巻き方と注意事項 4.巻軸帯の巻き戻し		
6	1	2	5.基本包帯法(環行帯、螺旋帯、蛇行帯、折転帯) ①		
7	1	2	5.基本包帯法(環行帯、螺旋帯、蛇行帯、折転帯) ②		
8	1	2	5.基本包帯法(折転帯、亀甲帯、麦穂帯) ①		
9	1	2	5.基本包帯法(折転帯、亀甲帯、麦穂帯) ②		
10	1	2	5.基本包帯法(折転帯、亀甲帯、麦穂帯) ③		
11	1	2	5.基本包帯法(折転帯、亀甲帯、麦穂帯) ④		
12	1	2	中間試験		
13	1	2	鎖骨骨折概説		
14	1	2	6.冠名包帯法(デゾー) ①		
15	1	2	6.冠名包帯法(デゾー) ②		
16	1	2	6.冠名包帯法(デゾー) ③		
17	1	2	6.冠名包帯法(デゾー) ④		
18	1	2	6.冠名包帯法(ヴェルポー、ジュール) ①		
19	1	2	6.冠名包帯法(ヴェルポー、ジュール) ②		
20	1	2	6.冠名包帯法(ヴェルポー、ジュール) ③		
21	1	2	6.冠名包帯法(ヴェルポー、ジュール) ④		
22	1	2	単位認定試験		
23	0.5	1	解答・解説		
合計					
23	22.5	45			
学習方法 1) 板書及び説明、解説 2) 資料の配布及び説明、解説 3) 実技実習					
評価方法 「学則第24条、第25条、第26条、第27条、第28条」及び「学則施行細則第11条、第15条」並びに「単位認定試験実施要領」「単位認定・進級判定要領第1項」「成績評価規程」に準ずる。					
教科書 包帯固定学 : 南江堂					
教員について【実務経験有】 (鈴木先生) 担当教員は柔道整復の教員資格を持ち、整形外科・接骨院にて5年以上臨床経験を積んでおり、現在も附属接骨院で臨床経験を積んでいる。その経験に基づいて柔道整復学・各論を資格取得後に応用できるような授業を展開する。					

## 2020年度 授業要項

区分		専門分野	授業形式	履修学年/学部	第1学年/昼間部 IIコース
科目名		基礎柔整実技Ⅱ	実技	履修単位/時間	1単位/45時間
教員資格		柔道整復師 専科教員		使用教室	実技実習室
教員名		森 俊明・鈴木 勇也			
学習目標と講義概要		基礎的な柔道整復学を基に、柔道整復師としての資質を涵養することを目的とする。 外傷治療における包帯の汎用性の高さについて理解させ、人体各部位別の包帯技術について習得させる。			
回数	コマ数	時間数	学習内容		
1	1	2	7.部位別包帯法(A.頭部・顔面)		
2	1	2	7.部位別包帯法(B.肩部 C.肘部) ①		
3	1	2	7.部位別包帯法(B.肩部 C.肘部) ②		
4	1	2	7.部位別包帯法(D.前腕部 E.手関節部) ①		
5	1	2	7.部位別包帯法(D.前腕部 E.手関節部) ②		
6	1	2	7.部位別包帯法(F.手指部) ①		
7	1	2	7.部位別包帯法(F.手指部) ①		
8	1	2	7.部位別包帯法(G.股関節部 H.大腿部)		
9	1	2	7.部位別包帯法(I.膝関節部 J.下腿部) ①		
10	1	2	7.部位別包帯法(I.膝関節部 J.下腿部) ②		
11	1	2	7.部位別包帯法(K.足関節部) ①		
12	1	2	7.部位別包帯法(K.足関節部) ②		
13	1	2	7.部位別包帯法(K.足関節部) ③		
14	1	2	7.部位別包帯法(L.足指部) ①		
15	1	2	7.部位別包帯法(L.足指部) ②		
16	1	2	7.部位別包帯法(M.胸部・背部)		
17	1	2	8.その他の包帯法(・合わせ包帯)		
18	1	2	8.その他の包帯法(・多頭帯)		
19	1	2	9.三角巾による提肘		
20	1	2	三角巾の応用(頭部、臀部、足部)		
21	1	2	10.さらしによる固定		
22	1	2	単位認定試験		
23	0.5	1	解答・解説		
合計					
23	22.5	45			
学習方法					
1)板書及び説明、解説 2)資料の配布及び説明、解説 3)実技実習					
評価方法					
「学則第24条、第25条、第26条、第27条、第28条」及び「学則施行細則第11条、第15条」並びに「単位認定試験実施要領」「単位認定・進級判定要領第1項」「成績評価規程」に準ずる。					
教科書					
包帯固定学 :南江堂					
教員について【実技経験有】					
(森先生)接骨院にて約6年の経験がある。					
(鈴木先生)担当教員は柔道整復の教員資格を持ち、整形外科・接骨院にて5年以上臨床経験を積んでおり、現在も附属接骨院で臨床経験を積んでいる。その経験に基づいて柔道整復学・各論を資格取得後に応用できるような授業を展開する。					

## 2020年度 授業要項

区分	専門分野		授業形式	履修学年/学部	第1学年/昼間部 IIコース
科目名	応用実技 I		実技	履修単位/時間	1単位/30時間
教員資格	柔道整復師 専科教員			使用教室	実技実習室
教員名	平戸 幹憲				
学習目標と講義概要	歴史ある柔道整復術について理解を深め、先人達が築き上げてきた治療法を習得させることを目的とする。固定に使用する副子の基本的な用途について理解させ、厚紙副子、金属副子、ギプス、キャストなどの作製と基本的な固定技術を習得させる。				
回数	コマ数	時間数	学習内容		
1	1	2	11.固定材料の作成と固定例(A.厚紙副子、すだれ副子)1		
2	1	4	11.固定材料の作成と固定例(A.厚紙副子、すだれ副子)2		
3	1	6	11.固定材料の作成と固定例(A.厚紙副子、すだれ副子)3		
4	1	8	11.固定材料の作成と固定例(B.金属副子)1		
5	1	10	11.固定材料の作成と固定例(B.金属副子)2		
6	1	12	11.固定材料の作成と固定例(C.アルミ副子)1		
7	1	14	11.固定材料の作成と固定例(C.アルミ副子)2		
8	1	16	11.固定材料の作成と固定例(D.ギプスと給水硬化性キャスト材)1		
9	1	18	11.固定材料の作成と固定例(D.ギプスと給水硬化性キャスト材)2		
10	1	20	11.固定材料の作成と固定例(E.ロール状熱可逆性キャスト材)		
11	1	22	11.固定材料の作成と固定例(F.板状熱可逆性キャスト材)		
12	1	24	11.固定材料の作成と固定例(H.テープを用いた指骨骨折の牽引療法)		
13	1	26	11.固定材料の作成と固定例(I.装具)		
14	1	28	単位認定試験		
15	1	30	解答・解説		
合計					
15	15	30			
学習方法					
1)板書及び説明、解説      2)資料の配布及び説明、解説      3)実技実習					
評価方法					
「学則第24条、第25条、第26条、第27条、第28条」及び「学則施行細則第11条、第15条」並びに「単位認定試験実施要領」「単位認定・進級判定要領第1項」「成績評価規程」に準ずる。					
教科書					
包帯固定学 :南江堂					
教員について【実技経験有】					
担当教員は、柔道整復師専科教員資格の他、スポーツトレーナー資格等を持ち、病院や接骨院等の臨床現場のみならずスポーツトレーナーでの実務経験を有している。他の学校での教育経験等もあり、これらの経験を活かし授業を行う。					

## 2020年度 授業要項

区分	専門分野		授業形式	履修学年/学部	第1学年/昼間部 IIコース
科目名	総合実技 I		実技	履修単位/時間	1単位/45時間
教員資格	柔道整復師 専科教員			使用教室	実技実習室
教員名	平戸 幹憲				
学習目標と講義概要	高いレベルの専門知識と臨床に直結できる技術力を習得させ、即戦力として社会貢献できる柔道整復師の養成を目的とする。 外傷評価における診察の重要性について理解させ、問診、視診、触診、機能的診察等の診察技術を習得させる。臨床実習前試験を行い、最低限の臨床実習技術を身に付ける。				
回数	コマ数	時間数	学習内容		
1	1	2	1-A.柔道整復業務 1-B.骨折の施術 1-C.脱臼の施術 1-D.軟部組織損傷の施術		
2	1	2	2-A-1.観察および問診(・患者の姿勢、歩行、全身状態の観察)		
3	1	2	2-A-1.観察および問診(・問診) ①		
4	1	2	2-A-1.観察および問診(・問診) ②		
5	1	2	2-A-1.観察および問診(・問診) ③		
6	1	2	2-A-1.観察および問診(・患部の観察) ①		
7	1	2	2-A-1.観察および問診(・患部の観察) ②		
8	1	2	2-A-2.触診(・腫脹・筋硬結・圧痛・変形および変化・熱感・感覚異常・雑音) ①		
9	1	2	2-A-2.触診(・腫脹・筋硬結・圧痛・変形および変化・熱感・感覚異常・雑音) ②		
10	1	2	上肢(肩甲帯、肩、肘、前腕、手、母指、指)の正常可動域 (資料配布) ①		
11	1	2	上肢(肩甲帯、肩、肘、前腕、手、母指、指)の正常可動域 (資料配布) ②		
12	1	2	下肢(股、膝、足、足部、母趾、足指)の正常可動域 (資料配布) ①		
13	1	2	下肢(股、膝、足、足部、母趾、足指)の正常可動域 (資料配布) ②		
14	1	2	体幹(頸部、胸腰部、顎関節)の正常可動域 (資料配布)		
15	1	2	2-A-3.機能的診察(・可動域制限・動作に伴う疼痛・異常な動きの有無)		
16	1	2	末梢神経障害における伸張反射検査(膝蓋腱反射、アキレス腱反射、上腕二頭筋反射、上腕三頭筋反射)		
17	1	2	2-A-3.機能的診察(・神経の機能)		
18	1	2	2-A-3.機能的診察(・トリックモーション)		
19	1	2	診察の演習 ①		
20	1	2	診察の演習 ②		
21	1	2	診察の演習 ③		
22	1	2	単位認定試験		
23	0.5	1	解答・解説		
合計					
23	22.5	45			
学習方法 1)板書及び説明、解説 2)資料の配布及び説明、解説 3)実技実習					
評価方法 「学則第24条、第25条、第26条、第27条、第28条」及び「学則施行細則第11条、第15条」並びに「単位認定試験実施要領」「単位認定・進級判定要領第1項」「成績評価規程」に準ずる。					
教科書 柔道整復学実技編 :南江堂					
教員について【実技経験有】 担当教員は、柔道整復師専科教員資格の他、スポーツトレーナー資格等を持ち、病院や接骨院等の臨床現場のみならずスポーツトレーナーでの実務経験を有している。他の学校での教育経験等もあり、これらの経験を活かし授業を行う。					